

令和 3 年度
日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
(令和 2 年度事業)

令和 3 年 9 月
日野市ふるさと文化財課
(郷土資料館)

目次

1 はじめに	1
2 評価の目的	1
3 郷土資料館の現状	1
(1)組織と職員	
(2)主な業務	
4 評価の実施方法	2
5 評価の対象	2
6 評価の結果	2
事業別 郷土資料館の運営状況の評価表	5～17

参考資料

I 令和2年度 日野市郷土資料館の活動状況	18～27
II 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱	28
III 第8期日野市郷土資料館協議会委員名簿	29

1 はじめに

平成 15 年以降、「博物館の設置及び運営に関する基準」に基づき、郷土資料館は事業の水準の向上を図り、郷土資料館の目的を達成するため、自ら評価を行い郷土資料館協議会の御意見をいただき、その結果を公表するように努めてきております。

さらに、平成 20 年の「博物館法」の改正により、郷土資料館の運営状況に関する評価として、「博物館は、運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とされています。

これらを受け、郷土資料館では、平成 21 年 3 月、「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、郷土資料館の運営状況に関する評価を実施しております。

2 評価の目的

この評価は、郷土資料館の運営状況に関する情報を、積極的に公表することにより、郷土資料館の利用者や関係者との相互の理解を深めるとともに、連携・協力を図り、郷土資料館の事業を推進することを目的とするものです。

3 郷土資料館の現状

(1) 組織と職員

令和 3 年度 ふるさと文化財課

館長1(ふるさと文化財課長(兼郷土資料館長))

[庶務係]課長補佐(兼庶務係長事務取扱)1、主任1、用務員1

[学芸係]係長1(学芸員)、主査1(学芸員)、主任 5(学芸員)、主事1(学芸員)、会計年度職員 6 人

令和 2 年度 郷土資料館

1 係〔資料館係〕

館長 1、係長1、主査 1(学芸員)、主任 1(学芸員)、用務員 1

会計年度任用職員:4 人

(2) 主な業務

平成 17 年 4 月 1 日、ふるさと博物館から新たに生まれた日野市郷土資料館は、次の目的を達成することを目指して活動をしています。令和 3 年 4 月から郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、生涯学習課文化財係が組織統合し「ふるさと文化財課」となり郷土資料館の使命を引き継いでいます。

- ① 歴史、民俗、自然等の資料の収集、保管及び展示に関する業務
- ② 資料の調査研究に関する業務
- ③ 資料の普及広報活動に関する業務
- ④ 学校教育や市民による自主的学習活動への支援の連携業務

4 評価の実施方法

郷土資料館では「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」に基づき、毎年1回、郷土資料館協議会へ運営状況についての自己評価を提出し、協議会の評価を併せて評価書としてまとめ、教育委員会へ報告いたします。その後、市民の皆様へ公表することとしています。

さらに、その評価の結果に基づき、今後の郷土資料館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。

5 評価の対象

令和2年度の評価対象は、次の11事業について行うこととしました。

- No.1 郷土資料館協議会の開催
- No.2 学校教育との連携事業
- No.3 企画展開催事業
- No.4 特別展「みんなのひの宝モノ語り展」の開催事業
- No.5 文化財緊急調査事業
- No.6 古文書等歴史資料の調査・整理事業およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業
- No.7 真慈悲寺調査事業
- No.8 「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信事業
- No.9 七生丘陵の自然と歴史調査事業
- No.10 たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業
- No.11 資料館講座・体験学習事業

6 評価の結果

<<郷土資料館協議会の評価>>

令和2年度「日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価」の項目別概要は次の通りです。

No.1「郷土資料館協議会の開催」は、組織変更にともない協議会のあり方について、郷土資料館協議会を継続し、ほかの委員会との連携を図るといった意見がありました。

No.2「学校教育との連携事業」は、校務支援システムでの資料館活用事例の発信や、郷土教育推進研究委員会への資料館の参加が、学校教育現場に役立っていると評価されました。

No.3「企画展開催事業」は、ミニコーナー展やパネル展といった小規模な展示の工夫が評価されました。また、企画展内容のアーカイブ化、感染症対策をした来館アンケート実施、資料館での映像展示について提案がありました。

No.4「特別展「みんなの ひの宝モノ語り展」の開催事業」は、「どんど焼」といった現在進行中の行事を紹介することや、調査・報告書刊行・展示をとおしての地域とのつながりを築くことの大切さを評価されました。

No.5「文化財緊急調査事業」は、緊急調査の必要性を支持する意見がありました。また、市民への啓発が資料散逸や消滅を防ぐことにつながるため、HPや展示などで広く知らせることが必要との意見がありました。

No.6「古文書等歴史資料の調査・整理事業およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業」は、学校に残された古い資料が学校との連携により残されたことが評価されました。その一方で民俗や歴史的資料が散逸することへの懸念が毎年のようにあげられ、迅速な対応が可能な体制づくりが望まれています。古文書講座は魅力があり、入門者向けの短期の講座の提案もありました。デジタル化と検索システムは調査整理の土台となるとの意見がありました。

No.7「真慈悲寺調査事業」は、京王百草園内等に設置した QR コードでの解説は、若年層への普及にもつながり、昨年度同様に評価を得ました。また駐車場やトイレなどの百草を訪ねる人たちへの利便性を高めることについて意見がありました。

No.8「勝五郎生れ変り物語」の調査と発信事業」は、メディアにとりあげられ、広く知られる機会があると評価されました。WEB配信や、新たなメンバーの参加といった調査団活動の活性化も好感を得ました。

No.9「七生丘陵の自然と歴史調査事業」は、コロナ禍での地域散策の需要に対して、丘陵地域の散策ガイドの配布やパネル内容のHP発信が必要との意見がありました。また、調査活動の活性化のため調査団活動紹介を更に行うように意見がありました。

No.10「たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業」は、資料館の情報発信が、紫波町との交流事業につながり、地域起こしの成果として評価されました。巽聖歌を学校の教材とすることにも関心がもたれました。

No.11「資料館講座・体験学習事業」は、感染症対策として中止となった講座をパネル展や動画配信などへの柔軟に変更対応したことが評価されました。また、感染症対策を考慮し実施できる方法を検討するように意見がありました。

<<郷土資料館の自己評価>>

郷土資料館協議会からは、特に学校教育との連携や市民との協働による調査研究事業(真慈悲寺調査事業、「勝五郎生れ変り物語」の調査・発信事業、七生丘陵の自然と歴史調査事業、たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業など)の活動と成果について、高い評価をいただきました。「学校教育との連携」と「市民との協働」は、郷土資料館が設立時から謳ってきた館の理念であり、15年にわたる地道な取り組みに対する評価であると受け止めています。いただいた評価をもとに、新しい時代に向けて組織のあり方や事業内容を検証しながら、これらの事業を

充実させていきたいと考えます。

また、QRコードを用いた解説や、講座等の事業の Web 配信など、従来の展示や講演会とは異なった情報発信を試みたことに対する評価もいただきました。これらの取り組みには新型コロナウイルス感染症への対応という側面もありましたが、これからの博物館・資料館の情報発信の可能性を広げる新たな手段として定着させ、発展させてまいります。

この一方で、上記のような取り組みが、まだ広く市民に知られていないというご指摘もいただいています。郷土資料館の活動をいかに広く市民に周知し・理解していただくかは、長年にわたる課題です。動画配信や QR コードの活用といった令和 2 年度の試みを参考にしながら、今までとは異なる普及活動を模索し、実践していきたいと思えます。

また、文書資料や、どんど焼き、膳枕倉といった民俗資料など、資料の散逸・消失の危険性と、それらの資料をすみやかに調査し、保存する必要性が指摘されています。地域の歴史・文化・自然等に関する資料の調査・保存は、地域博物館に課せられた最も重要な使命であり、悉皆的な資料の所在調査を行い、それに基づく計画的な保存措置を講じていきたいと考えます。

郷土資料館は統合により令和 3 年度からふるさと文化財課となりましたが、新たな体制のもとでも、これまで郷土資料館が行ってきた取り組みを深化させてまいります。課題としてご指摘をいただいた郷土資料館協議会のあり方については、これまで以上に有効に機能するよう、文化財細審議会、新選組のふるさと歴史館運営審議会などとの関係を踏まえながら検討を加えてまいります。

評価対象となった各事業の自己評価及び郷土資料館協議会からいただいた評価及び意見は、5 ページ以降の評価表のとおりです。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.1 郷土資料館協議会の開催
事業の概要	<ul style="list-style-type: none">・日野市郷土資料館協議会は、博物館法および日野市郷土資料館条例により位置づけられている。郷土資料館の運営に関して、館長の諮問に応じ、館長に対して意見を述べる機関。学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、並びに学識経験者、公募市民の10人で構成されており、年3回の会議を開催して意見を求めた。なお、令和2年度の第3回協議会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面開催とした。・資料館は、毎年資料館協議会の意見をもとに、事業評価を行っている。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none">・協議会は、委員のそれぞれの立場での意見をいただく場となった。また、委員とのつながりで、会議以外の場でもご教示をいただくこともあった。・委員を通して他地域での事例や、市民活動現場、学校教育、市民の声を聞くことができた。・当館の運営状況の評価について意見を求め、結果は教育委員会に提出した後、市民に公表した。・委員の協力をいただき、地域との繋がりを築くことができた。・委員の意見を、展示・講座などの事業や業務改善に生かすことができた。・協議会で定めた資料寄贈寄託などの手順をもとに、資料受入等の手続きを実施し、状況報告を行いながら事例を積み立てた。
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none">・組織が変わったが、郷土資料館業務は従来成果を継承していくことでよいのか。・協議会の名称や委員構成がこのまま継続するのか。・ふるさと文化財課の抱えている、他の委員会との顔あわせをし、相互理解を深めたい。また、連携をお願いしたい。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none">・令和3年度組織改編をふまえたご意見をいただき事業に反映していきたい。・会議だけでなく、委員との情報交換など郷土資料館とのつながりを生かしていきたい。・令和2年度は、2回の対面での会議を開催した。第3回協議会は書面開催となったため、意見の徴収は可能であったが、意見交換する場にはならなかった。通信機器を使用したりリモートでの会議を実施するか否かは、各委員の通信環境に考慮して決定する必要がある。・ふるさと文化財課に統合された後、これまでの文化財保護審議会、新選組のふるさと歴史館運営審議会、古文書等歴史資料整理編集委員会など、複数の委員会の意義と情報をどのように共有・交換していくのが課題となる。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.2 学校教育との連携事業
<p>事業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の文化財を活用し、小中学校と幼稚園、保育園などを対象とした文化財の啓発事業を展開する。 ・社会科見学や出前授業、見学会、職場体験などは、小中学校などの要望を取り入れた内容で行う。 ・授業で使う資料の相談を受けて資料提供を行い、見学場所や人材紹介などを行う。 ・当館で蓄積した画像データなどを、学校に提供してICT教育の教材として活用をはかる。 ・学校教育との連携について、校務支援システムの掲示板機能を用いて情報発信を記録して発信する。 	
<p>事業の成果</p> <p>〈小学校の学習利用〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年社会科見学など団体見学資料館展示案内(5校)、わかば教室。 ・3年国語コマまわし体験(1校)、3年丘陵の自然(1校)、3年社会科日野市のうつりかわり(4件) <p>〈中学校などの学習利用〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校グループ来館地域調査・職場訪問(2校) ・出張授業総合日野市の歴史(2校)、出張授業 総合職業(1校) <p>コロナ禍対応として、団体見学の際には、滞在時間や人数の制限を行い、消毒の実施など感染症対策を行って実施した。また、今まで校外学習としてグループで校外に出向いていた中学校の総合や職場訪問が、出張授業という形に変更となった。校外学習の選択肢が減少したなかで、児童生徒の校外学習の場を提供することができた。</p>	
<p>協議会の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムに郷土資料館の学校見学例などを紹介しており、資料館活用の検討に役立つ。 ・郷土教育推進研究委員会には、教諭だけでなく、資料館や歴史館、図書館職員など加わっており、教材化に役立っている。また、他市から赴任した教諭が日野について知る機会となる。 ・一人一台パソコンの導入など、学校の変化に合わせた対応を願う。 	
<p>課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍中では、積極的に学校に対して来館の働きかけを行わなかった。学校は校外学習の機会が少なくなり、対応してくれる場所も減ったことから、今までにはなかった形での学校からの協力依頼があった。 ・来館の場合、大人数の学校に対しては、来館時間の分散をお願いして対応したが、人数が多く、見学時間の制約がある学校の場合は来館できなかった。 ・学校現場でのICT技術を用いた授業がより活発になることにあわせて、資料館側も対応するための体制やスキルが必要とされる。また、従来の実物を用いた体験の大切さを重視し、子どもたちに感動を伝えることも忘れてはならない。 ・郷土教育推進研究委員会を通してなど、郷土資料館からの学校への情報の発信や学校からの情報を受け取り、連携を強化する。 ・短時間でも小学校の教員が取り入れたいと思う郷土資料館活用メニュー作りを進めていきたい。 ・見学や出張授業などの際には、学校との連携を密にして、共通理解したうえで効果的にすすめる。また感染症対策も行う必要がある。 	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.3 企画展開催事業
事業の概要	
1	郷土資料館企画展(2回)
「七生丘陵ハイキングの今昔」(4月18日～7月5日)	
どつき土器展 2020 考古学入門」(7月11日～9月27日)	
※10月3日～令和3年3月28日は、特別展「みんなの ひの宝モノ語り展」の第二会場	
2	館内パネル展(4回)
「東京オリンピック記念植樹碑と市制記念植樹碑」(6月13日～7月31日)	
「明日に伝える戦争体験」(8月2日～9月11日)	
「百草倉沢の歴史を楽しむ 発掘調査の成果から」(9月12日～12月13日)	
「巽聖歌」学校貸出用パネル展示 (12月19日～4月23日)	
3	館内ミニコーナー展「国勢調査のはじまり」(9月26日～12月11日)郷土資料館
4	出張展示
パネル展「写真展 豊田・多摩平の100年」(9月2日～30日、多摩平の森ふれあい館)	
「介護老人保健施設カトレア秋の展示」(11月7日～11月20日、介護老人保健施設カトレア)	
ふれあいミニ展示「昔の道具～万願寺の風景」(1月22日～3月30日、万願寺交流センター)	
東京空襲資料展「戦争を繰り返さないために」(3月4日～7日、多摩平の森ふれあい館)	
※共催：東京都・日野市(総務課・公民館・図書館・郷土資料館)	
パネル展「程久保川」(3月25日～4月22日、多摩平の森ふれあい館)	
<展示内容の補足>	
・コロナ感染症対策として、「東京オリンピックのレガシー」「戦争体験を語り継ぐ」の動画配信を行った。	
・パネル展「豊田・多摩平の100年」	
令和元年度特別展「豊田のむかし」以降も継続している、豊田・多摩平地区の歴史調査の一環で、当初は古い映像や写真を見ながら、参加者と意見交換をする形のイベントを企画していたが、新型コロナウイルス感染症でイベントの開催が難しくなり、写真パネル展のみで実施した。豊田駅開業120年(令和3年2月22日)のプレイベントとしての性格も併せ持つ。	
・ミニコーナー展「国勢調査のはじまり」	
大正9年10月1日の第一回国勢調査から100年目にあたることから、館蔵の資料で当時の国勢調査を振り返る。	

事業の成果

- ・豊田多摩平の100年…9月13日付読売新聞地域版にパネル展が紹介されたため、市外からの観覧者も増えた。展示を見た人から写真提供の連絡もあった。また、このパネル展の内容を参考にして豊田駅が開業120年記念写真展を開催し、当館から写真提供などで協力した。
- ・国勢調査のはじまり…ふだん展示する機会の少ない館蔵資料の活用と、国勢調査の重要性を啓発することができた。
- ・館外展示は概ね好評で、多摩平の森ふれあい館で行った「写真展 豊田・多摩平の100年」は、約1か月間で402名、東京空襲資料展「戦争を繰り返さないために」は4日間で287名の入場者があった。数値には出てこないが、地区や施設での展示も好評であった。
- ・コロナ感染症対策として、「東京オリンピックのレガシー」「戦争体験を語り継ぐ」の動画配信を行った。

協議会の意見

- ・七生丘陵ハイキングの企画展案内をHPで見ても、行ってみたいと思える内容だったが、後に読もうとして見つけれなかった。企画展の内容がアーカイブで見られるとよい。
- ・パネル展、ミニコーナー展は、不利な施設の狭い場所をよく活用している。映像もセットであるとよい。
- ・空襲展は小学生の作品とともに資料が見られてすばらしかったが、会期4日間が残念。
- ・来館者のアンケートがとれるように工夫して欲しい。
- ・メールで後日アンケートをすると、より多くの内容でお世辞抜き感想が寄せられ有効である。

課題と改善策

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、不特定多数の方に記入していただくことが難しいとされ、アンケート調査が実施できなかった。資料館への電話や会場で直接聞いた感想には、「廊下ではなく、もっと大きい会場で、たくさんの写真を見たい」、「解説文をもっと多く」、「またやってほしい」、「別の場所でもやってほしい」等の意見があった。当初予定していた、豊田の昔の写真を題材にしたイベントは別の機会にぜひ開催したい。
- ・来館者アンケートは、展示場所や、感染症対策を考慮して工夫して実施していく。
- ・資料館への市民の興味を引き付けるような、小規模でも魅力的なテーマ展を開催していきたい。
- ・平和展は、市の関係部署で毎年連携して行っており、平和を伝える行事として維持していくことに意味がある。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.4 特別展「みんなの ひの宝モノ語り展」の開催事業
事業の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・新選組のふるさと歴史館を第一会場(9月12日～11月29日)、日野市郷土資料館を第二会場(10月3日～令和3年3月28日)として、特別展「みんなの ひの宝モノ語り展」を開催した。本展示は、これまで収集した民俗資料を中心に文書の記録や古老の話、行事調査を紹介することにより、日野市域のかつての暮らしのあり方の魅力を伝えることを目的とする。 ・以前の特別展とは異なり、すべての文字にルビを振り、平易な表現を心掛けることで、子どもから大人まで同じ展示を見学することを視野に入れた。 ・サイノカミ・どんど焼き勉強会の市民が、令和元年度から自ら動いて調査した記録をまとめ、日野市域15か所のどんど焼き行事を紹介した。 	
事業の成果	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での開催にもかかわらず、第一会場(新選組のふるさと歴史館)では68日間の会期中2,765人、第二会場(日野市郷土資料館)では148日間で566人となり、延べ3,331人の入館者があった。 ・小学生にとっては学校での学習で馴染みがある民俗資料(昔の道具)が数多く展示され、振り仮名付きの解説を自分で読みながら友だちと語っており、学習に役立った。 ・写真パネルを多く展示したこともあり、市民団体が親子で展示見学を希望するなど小さな子どもにも好評だった。 ・コロナ禍のため、ミニシンポジウム「多摩市域におけるサイノカミ・どんど焼き行事」を関係者限定で行ない、三多摩それぞれの地域の事例と討論風景を録画した。 ・特別展に際して、サイノカミ・どんど焼き勉強会が調査した『日野市域におけるサイノカミ・どんど焼き行事調査報告書』を刊行した。当行事の担い手から「報告書そのものが宝モノだ」という感想を聞くなど、より担い手の信頼を築くことができた。 	
協議会の意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在進行中のどんど焼の行事を展示で紹介するのはよいことで、なくなってしまった地域で復活の可能性もあるので、続けて欲しい。 ・コロナでの中止や高齢化によりどんど焼が途絶えてしまう地域もあるので、行政や郷土資料館でバックアップしてくれるとよい。 ・どんど焼を開催している地域の方が報告書を活用して説明に使い、説明を受けた学生がさらに展示を見に来たり、資料提供者が手紙をくれたりといった双方向の関係が素晴らしいので、そのような関係を築いていって欲しい。 	
課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・本展示のテーマの範囲が広域に渡ったからこそ、日の目を見なかった資料を多くの来館者に紹介することができたが、今後は一点一点の資料をさらに深く調査していきたい。 ・展示資料の寄贈者が、感動を手紙などで伝えてくれた。今後も市民との交流で得たつながりを大切にしていきたい。 ・コロナ禍における展示のあり方を考えるきっかけとなった。今後も入館制限や触れる展示の撤去など制約がある中で、展示を通しての市民への還元方法を工夫していきたい。 	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.5 文化財緊急調査事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・代替わりや区画整理等の理由で処分される建造物または蔵等に収蔵されているものについて、専門家と連携して調査を行い、地域を語る資料の記録保存を行う。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日野桑園第一蚕室(主に火炉等)の記録保存調査 旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室の保存修理工事にあわせて、工事期間中でないと撮影できない、蚕室床下構造を含む貴重な記録写真を撮影することができた。 ・修理後の日野桑園第一蚕室の記録撮影 保存修理を完了した第一蚕室について、利活用前の姿を記録保存することができた。 ・資料活用のための市域古写真の複写 ・日野本町在住の市民より、戦後の日野宿の詳細な記録や、市域の古写真の提供を受けた。それらを地域資料として活用するため、専門家による写真の複写を行った。
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急対応なので予算化は必要である。 ・緊急対応なので予算がなかったとしても調査は必要である。 ・文化財課として組織が充実した。複数の担当者を配置し、迅速・確実に調査し、保存・活用・市民への啓発に努めてほしい。調査の成果は、HP・広報ひの・ミニパネル展等で、市民に知らせてほしい。 ・調査結果の報告を HP や展示、発行物などで行うことは、単に成果の報告というだけでなく、文化財の散逸や消失を防ぐためにこのような事業を行っているということのPRにもなるため、ぜひ積極的に行ってほしい。 ・記録写真や古写真は、視覚的に状況を把握できる学術資料と認識して作成・収集してほしい。 ・市内の養蚕業の歴史を踏まえ、試験場との関係や果たした役割の評価が期待される。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急性が高いため、予算化されにくい無形・有形の文化財を記録保存するための事業として非常に有効。 ・今後も状況に合わせて、予算を獲得する必要がある。 ・常にアンテナを張り、情報収集に努め、速やかな行動を行う必要がある。 ・収集後の速やかな記録及び保存を心がけ、資料の散逸を防ぎながら、収蔵する必要がある。 ・整理後は、HP などで調査成果についての報告を行うことが望ましい。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.6 古文書等歴史資料の調査・整理事業 およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業
<p>事業の概要</p> <p><古文書等歴史資料の調査・整理事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の古文書の整理、目録作成、補修、撮影を行ない、保存のための手段を講じる。 ・古文書を解読して、展示などに利用するほか、印刷物として刊行し、広く市民の利用に供する。 ・古文書を利用した講座や見学会を開講し、古文書に対する市民の理解を深め、古文書を読み解く楽しみを広める。 ・古文書等歴史資料整理編集委員会を年3回開催し、委員の意見を参考にして上記の事業を行う。 <p><マイクロフィルムデジタルデータ化事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館では、市史編さん事業等で古文書等歴史資料を撮影したマイクロフィルムを保管しており、その数は、35mmフィルム358巻と、16mmフィルム64巻である(16mmフィルムは35mmフィルムの倍のコマ数がある)。最初の撮影から約50年近くが経過し、マイクロフィルムの劣化が進んでいるので、貴重なデータが失われる前にデジタルデータに変換して、保存と利活用をはかることを目的とする。同時に目録も合わせて電子化することで、パソコンを使った画像検索を可能にした。資料の保存と活用の上で、当事業は資料館の活動に欠かせないものである。 	
<p>事業の成果</p> <p><古文書等歴史資料の調査・整理事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・川辺堀之内膳椀倉の取り壊しにともない、資料が寄贈されたほか、豊田小学校、日野第四小学校等の所蔵資料や、個人所蔵の古文書などの調査、整理、目録作成、撮影などを実施した。 ・日野の古文書を読む会研究部会と協働で、南平 T 家文書の整理(前年度から継続)は11回実施し、ボランティア延べ41人が参加した。また、古文書の解読と編集を24回行い、ボランティア延べ175人の参加があった。市外の博物館等を訪れ、日野に関係する資料調査と撮影も実施した。同会はまた、解読した古文書について『軌跡Ⅳ 多摩川・浅川と日野』を編集発行し、資料館からは資料の提供を行った。新型コロナウイルスのため外出を自粛している市民のために、自宅での古文書学習に利用してもらうのに一役買っている。 ・初心者向け古文書講座「多摩川・浅川と日野」を1～3月にかけて全6回開催した。講師は日野の古文書を読む会の上野さだ子氏と大窪俊彦氏で、『軌跡Ⅳ』の内容などをより詳しく解説してもらった。開催にあたっては新型コロナウイルス感染症拡大症対策を十分に講じ、例年より定員を減らしたが、延べ113人の参加があった。 ・虫損の被害が甚大だった「平山村田畑反別其外取調野帳」の裏打ち修復を委託にて実施した。平成29年以来、4年かかって1冊の資料の修復が完了した。 ・古文書等歴史資料整理編集委員会を11月と3月の2回開催した。但し、3月は書面開催とした。 <p><マイクロフィルムデジタルデータ化事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館で平成19年度から使用していた検索システムは、Windows10へ移行して使用することが出来なかったため、新しい検索システムを構築する必要性に迫られ模索を続けてきた。 ・令和2年度はデジタルデータ化された古文書マイクロフィルムの画像データを外部サーバに保管し、インターネット回線を用いて古文書データベースの閲覧更新ができるシステムを構築した。 ・新しいシステムへのデータ移管作業のため、令和2年度はマイクロフィルムからのデジタルデータ化と目録入力作業の委託は行わなかった。 ・令和3年度から資料館を含めた「ふるさと文化財課」が新設されることになり、これまでのような古文書を撮影したマイクロフィルムからの変換データだけではなく、資料館で取り扱う資料全体の管理台帳を兼ねたシステムとして運用できるよう、新たな資料管理データベースの導入とクラウドによるデータ管理を委託によって行うことになった。 	

協議会の意見

- ・調査費用を何に優先するかであるが、膳椀倉も喫緊の課題かと思う。生活の変化とともになくなってしまふ。講中がもっていたものも散逸してしまう。
- ・膳椀倉もあったものが、なくなってしまう。中身だけでなく外身も大切。
- ・学校の資料受入れが印象に残った。学校・日野地域歴史にとって不可欠なものである。学校との連携ができていた。学校資料は古いもので個人情報とは関わらなくても処分されてしまうことがある。
- ・文化財課として組織が充実した。担当者を増やし、新発見等の資料が散逸しないよう、迅速に古文書の整理に対応してほしい。
- ・古文書講座はとても魅力的だが、全6回の連続講座であるため働いている者や学生からすると少しハードルが高く感じるかもしれない(全回参加が難しい)。
- ・実際に古文書を読めるようになるためには連続講座でないと難しいかもしれないが、入門として、古文書の大切さや読み解く楽しさについて触れられるような単発か全2,3回程程度の講座もあると若い人でもより参加しやすいのではないか。そのような講座があれば、ぜひ参加してみたいと思う。
- ・マイクロフィルムのデジタル化と検索システムの構築は、今後の調査・整理を効率的に進めるための土台となるものである。
- ・農協移転に際し、文書などの資料が引き継げなかったことが悔やまれる。
- ・古文書研究会では、古谷日記の解読をしているが、新発掘資料にも取り組みたい。
- ・古文書例会の会場確保をしっかりとるように。

課題と改善策

<古文書等歴史資料の調査・整理事業>

- ・新型コロナウイルス感染症の流行と緊急事態宣言によって、日野の古文書を読む会と市民協働で行う古文書整理などの作業は休止を余儀なくされることがあった。一方、自粛期間に家の片付けをする人が多かったためか、資料を見に来てほしい、引き取ってほしい、と声がかかることが多かった。資料保存の大切さを訴え続けてきた成果であると考えられるが、今後も引き続き、他部署や市民と連携をとりながら、区画整理や住宅の建て替えなどで散逸が心配される古文書等の歴史資料を緊急に保護できるようにしたい。
- ・日常の業務だけでなく、いずれ『新日野市史』が刊行される際に、基礎資料となるための資料の調査を着実に続けていく。古文書の調査や整理は、経験のある人材や資料の保管場所を必要とする。また、資料の撮影は量が膨大なために、時間も人手も要するが、資料調査と保存のためには絶対に必要な作業であり、将来的なデジタルアーカイブの公開にも役立つものであるから、予算が確保され、事業が停滞することのないようにしたい。

<マイクロフィルムデジタルデータ化事業>

- ・平成19年度の事業開始から令和元年度までに、35mmフィルム358巻と16mmフィルム29巻分のデジタルデータ化は完了している。残る16mmフィルム35巻分であるが、フィルムの劣化が進む前に、少しでも状態が良い内にデジタルデータ化が完了するよう努める。
- ・これまで運用していた検索システムで見つかったデータの不備や不具合、目録の訂正などについても、内容点検や修正の作業をする時間と人員を必要とするので、そのための予算が確保されるようにする。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 7 真慈悲寺調査事業
<p>事業の概要</p> <p>普及活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都遺跡発表会で「古代末から中世への歴史的な大変換点に存在した真慈悲寺」を紙面発表。HPでも公開。 ・郷土教育事業に協力して「中世の大寺院真慈悲寺」(平安時代編)をパワーポイントで作成し教員向けネットワークに公開。 ・講座「文献資料からみた真慈悲寺」を実施。講師：峰岸純夫 ・令和元年度に設置したQRコードを貼り替えて解説を一部改訂した。また、13か所全体を俯瞰できる地図「QRコードで京王百草園・百草八幡神社の歴史めぐりはいかが?」を作成して京王百草園と八幡神社で配布をはじめた。 ・解説DVD上映時の人手を少なくする工夫として、複数ある既存の解説DVDの一本化をおこなった。 ・真慈悲寺解説リーフレット発掘特集号改定版を3,000部印刷。 <p>調査・研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京王百草園内表採の寄贈古銭「文久永宝」(1862年初鑄)の調査。 ・百草地区稻荷社の棟札解説。 ・個人が収集した万蔵院台遺跡表採の縄文土器・石器コレクションの事前調査と受け入れ。 	
<p>事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置したQRコードの全体を俯瞰する地図を作製したことによって、地図をたよりに各自が各々のペースでこの地域の歴史を探索するルートができた。 ・稲荷社棟札の調査から、修験の寺の万蔵院11代当主由木祐範が遷宮導師として稲荷再興に関わったことがわかった。廃仏毀釈の際に廃寺となった万蔵院の宗教活動を物語る貴重な資料である。また、幕末に流通した「文久永宝」は江戸市中から多くの参拝客を集めた松連寺の様子を髣髴とさせる資料である。今回、こうした資料が真慈悲寺調査・研究センターにもたらされたのは、日頃からの情報公開と長年にわたる地元住民との交流の中で実現したものである。 ・万蔵院台遺跡表採の縄文土器や石器類が大量に日野市に寄贈された。この中には他にほとんど類例の無い両面顔面把手が含まれている。これまでの発掘調査では知り得なかった大変貴重な縄文時代中期の資料であり、今後の資料整理が大いに期待される。 ・新型コロナウイルス感染症が猛威を奮う中、緊急事態宣言の間隙を縫って、ボランティアが集まり、QRコード改定の検討や、新発見の資料の調査、調査・研究センターの維持管理や看板清掃などに協力してくれたことは、頼もしい限りであった。 	
<p>協議会の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百草園の来園者には若い人も多くみられ、QRコードも活用されたのではないかと。QRコードのアクセス数がわかるとよい。 ・駐車場は近くに使える場所を設けられないのか。 ・見に来て欲しいという場所にはトイレも必要。百草のほか、日野桑園第一蚕室も同様に、ふれあいホールは使えず、道路を渡った不便なところでの利用になってしまう。 	
<p>課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、長年続けてきた京王百草園梅まつりでのパネル展示と解説ガイド、東京文化財ウィークでの国指定重要文化財「阿弥陀如来坐像」公開事業、第14回真慈悲寺現地イベントを中止せざるを得なかった。ガイドなしで自由に歴史散策するための観光用の大型案内看板を設置したい。その際に、常に課題として挙げられるのは駐車場がないことと、京王百草園が休園の時利用できるトイレがないことである。また、教員、児童・生徒が利用促進のために、入園料減免や予算の確保の検討がのぞまれる。 ・万蔵院台遺跡の縄文時代の資料は原位置の記録という点では劣るが内容は充実しており、来年度以降はこの資料を最大限に活用して地域の一級資料として地元に戻元できるような事業を組んでいきたい。また、令和5年には百草観音堂の12年に一度の聖観音立像の御開扉が控えている。観音堂の起立については不明な点も多い。調査・記録・公開のための準備をしっかりと整えて臨みたい。今後とも百草・倉沢地域の歴史・文化を後世に伝えるというこのプロジェクトの役割を忠実に果たし、地域の発展に貢献していきたい。 	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 8 「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信事業
<p>事業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 18 年度より、地元で伝わる生まれ変わり伝承の調査・研究・普及事業を、市民参加の調査団を結成し行なっている。令和2年度の活動は、総活動回数 21 回、参加者 209 人、内調査団 198 人だった。 ・新型コロナウイルスの流行による緊急事態宣言の影響で、4・5 月、令和 3 年 2 月の例会が中止となり、同 1 月の例会は書面開催とした。また、例年 5 月に開催している総会は、7 月例会内で行った。 ・調査・研究事業—コロナ禍で積極的な調査活動を行うことが出来なかったが、『浅草寺日記』等の調査により、露姫坐像の浅草寺納入日時が文政 11 年 2 月 7 日であること、同年 11 月に同寺で 7 回忌の法要が行われていることが判明。坐像は 7 回忌法要に併せて納入されたものであることがわかった。 ・普及事業—5 月の公開講演会は中止となったが、10 月の第 12 回藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日イベントは、高幡不動尊でのイベント実施に代えて、YouTube で動画配信した(10 月 10 日以降)。調査団メンバーの大東文化大学講師今井秀和氏による講演 2 本(勝五郎の「あの世の旅」・勝五郎の「この世の旅」)、調査団の活動紹介・立体紙芝居・紙芝居(日本語版と英語版)の合計 6 本の番組を配信している。また、郷土資料館見学の、滝合・仲田・日野第一・日野第四小学校の 3 年生に、勝五郎の DVD を鑑賞してもらい、解説も行なった。潤徳小学校にも DVD を貸し出した。 	
<p>事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例会の中止・書面開催、公開講演会中止のため、調査団としての活動の機会は例年の半分ほどに減少。調査や見学会も出来なくなり、出席を控える人もいて、参加者も減少した。メンバーのモチベーションの低下を懸念して、欠席者には資料や活動報告の送付、メールのやり取りなどを通じて、コミュニケーションと情報の共有に努めた。このような中で記念日のイベントを動画配信するという、初めての試みを行い、10 月～翌年 3 月までで、1,800 回を超えるアクセスがあった。経験も知識もない中での挑戦だったが、調査団のメンバーも持てる力を出し合い、外部の協力者(後メンバーに加入)を得て 6 本の番組を制作、英語版も出来て好評だった。コロナ禍でなければ、なかなか踏み切れない試みだったが、問い合わせや刊行物の販売も増え、改めて Web 配信の威力を実感させられた。 ・2年続けて子ども講座が実施出来ず、学校への出張事業も出来ない状況だったが、資料館見学の児童(市内小学校 4 校 3 年生)の密を避ける対策として、待ち時間に勝五郎 DVD を見せよう時間を作った。コロナ禍で偶然生じた機会だったが、解説も行ない、良い反応が返ってきた。後日家族と来館したり、感想を寄せてくれたりして、生命と魂の行方について考えてもらう大切な機会となったことがわかった。子どもに対する普及事業を中断してはいけないことを改めて実感させられるとともに、活動のありかたについて一層の工夫をしていくべきことを学んだ。 ・10月に、往来物研究家で立正大学講師の小泉吉永氏が来館され、勝五郎生まれ変わり物語を、江戸時代の「胎教」という立場から捉えて研究していることを知った。4月上旬に主宰する江戸学舎の見学会があり、ゆかりの場所をすべて案内した。 	
<p>協議会の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアにとりあげられ、知られる機会が増えている。 ・Web 配信や、活動メンバーの若返りといったことで課題が解決されつつある。 	
<p>課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査団メンバーの高齢化と活動の停滞は避けられない課題であり、主要なメンバーをまた 1 人見送る結果となった。このような中で、40代の新たなメンバーを迎え、20代の見学者もあり、活動の方向性の転換や次世代への受け渡しが迫られていることを実感するとともに、希望も見えてきた。Web 配信は非常に効果があるが、調査団事業の参加者には高齢者も多数いて、Web 環境を持たない人への対策も必要である。普及活動が進展したおかげで、ブックレットは完売、調査報告書も残部僅少となり、改訂版の刊行が急務となっている。 ・2022 年 11 月に、「勝五郎が生まれ変わりを語って 200 年」「露姫没後 200 年」という節目の年を迎えるにあたって、刊行物の再版と記念事業を企画し、到達点を目指して活動を進めていく所存である。 	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 9 七生丘陵の自然と歴史調査事業
事業の概要	<p>・七生地域を中心に、自然と暮らしの結びつきや、地域の歴史などの分野にわたるテーマで調査を行い、展示や見学会などを開催して地域の魅力を伝えていく。七生丘陵調査団の市民メンバーで積極的に活動した。</p>
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が自主的に興味をもったテーマを設定し資料館と連携して調査を行なってきた。生涯学習の機会を提供した。また市民目線で、自ら調査したことや発見したことの面白さや魅力を実感を込めて伝えることができた。自然班、歴史班とそれぞれのもつ興味で班を分けての活動もあった。調査団員の野外活動・例会など 63 回、延べ 140 人。 ・丘陵散策コースを中心に動植物の写真を撮影し記録した ・散策コースなど昔の写真などに写る情報について調査した。 ・多摩平の森ふれあい館において、パネル展「程久保川」を開催した。 ・今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、外歩きの講座を実施することができなかった。パネル展「程久保川」の内容で地図や現地の写真を多用することで、地域巡りの楽しさを伝えた。展示会場では、パネル原稿の一部を印刷配布した。 ・七生丘陵散策コースガイドブックの原稿作成を行った。 ・密を避ける活動として個人、グループ活動が行えない時期は各自が調査したり、写真撮影をしたりしてパネル展示の準備を行った。
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、参加者減が続いている。 ・コロナ禍、身近な地域を散策・調査する市民が増えている。調査団と連携して、七生丘陵散策コースガイドブックの作成を急ぎ、市民に配布してほしい。 ・今回の程久保川のパネル展など、調査団がかかわる展示などの機会に合わせて活動紹介を行い、団員の募集を積極的に行ってはどうか。 ・調査団の存在と活動内容、参加者を募集しているということを、もっと市民にPRしてはどうか。 ・令和2年から市内でナラ枯れの被害が拡大している。主にコナラの木が多く枯れているが、今後雑木林の生態系にどのような影響が出てくるのか注視していく必要がある。 ・コロナ禍で現地活動が制限されるなか、パネル展示の内容を HP で公開するのもよいのでは。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・調査団の高齢化もあり参加者数が減少傾向にある。役員も世代交代の時期となっている。また、野外活動での安全対策や、屋外活動時間の短縮など無理のない計画が必要となる。 ・新型コロナウイルス感染症のため、例会中止期間があり、調査活動が大きく縮小された。 ・調査団のメンバーが無理なく参加できる方法を提示し、調査団活動を維持し、外出自粛時にも対応できる方法を試行する。 ・調査情報は蓄積・保管するだけでなく、展示など発信手段も考えて成果をまとめていく。 ・七生丘陵調査団のメンバーがもつ能力を生かし、見学会や勉強会などで広く市民へと伝えていく。 ・パネル展「程久保川」は、最初行った多摩平の森ふれあい館だけでなく、再度別会場での展示の機会をつくる。 ・七生丘陵散策コースガイドブックは、公表する手段を具体化する。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 10 たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業
<p>事業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野市で後半生を過ごした詩人・児童文学者の巽聖歌について、日野市に寄贈されている資料の調査・研究・保存を図るとともに、巽聖歌とその作品についての普及活動を行うことを目的としている。 ・平成10年に、旭が丘にあった自宅の取り壊しに伴って資料の存在が確認されたことを機に、地元旭が丘で結成された「たきび会—巽聖歌を讃える会」と、たきび祭の実行団体である「旭が丘商工連合会」などと共に、調査・研究・普及事業を展開してきた。 ・平成11年「たきび詩碑」建立(たきび会)、平成17年「たきびの詩人・巽聖歌生誕百年記念展」、平成18年～たきび祭(たきび祭実行委員会—旭が丘商工連合会・たきび会・地元自治会など)、平成22年より豊田駅発車メロディーを童謡「たきび」とする、郷土資料館での企画展などの各種関連事業が行われてきたが、郷土資料館では毎年なたきび祭前夜祭において「巽聖歌朗読と歌のつどい」を開催し、巽聖歌の作品紹介、聖歌とゆかりの文学者を毎年一人取り上げ、巽聖歌と同時代の児童文学活動についての理解と普及に努めている。 ・巽聖歌の出身地岩手県紫波郡紫波町・新美南吉の出身地愛知県半田市・童謡「たきび」の舞台となった中野区上高田の鈴木家などとの交流を行ってきたが、これらの市民交流の成果として、平成29年1月紫波町との姉妹都市盟約が締結され、さらに交流が盛んになっている。 	
<p>事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度刊行の『巽聖歌資料集1—野村七蔵から巽聖歌へ』を1,600円で販売することが決定、9月に毎日新聞と読売新聞(ともに多摩版)に紹介記事を掲載してもらったので、購入希望や問い合わせが数件あった。資料集に関連して、『広報ひの』『みんなのふるさとこぼれ話』に「たきびの詩人巽聖歌十代の頃の文学活動」(令和2年2月15日)「たきびの詩人巽聖歌の日記から」(8月15日)を発表した。 ・15周年を迎えるはずだった「たきび祭」は延期となった。 ・12月19日、旭が丘中央公園で、紫波第三中学校の生徒有志と日野第四中学校の生徒会役員がリモートで交流し、例年修学旅行のために上京した三中生が行っている紫波産米の販売を日野第四中学校有志がおこなった。これに伴い、郷土資料館では学校貸し出し用の新作パネル18枚を、詩碑周辺に掲示した。 ・12月19日～令和3年4月23日まで、新作パネルお披露目展を開催した。 ・童謡「たきび」のラジオ放送テキストである『放送と科学 ラジオ少国民』昭和16年12月号の提供を受け、「広報ひの」こぼれ話に、「『ラジオ少国民』と童謡「たきび」」(12月1日)を執筆、朝日新聞の取材を受けた。同テキストは、童謡「たきび」の初出であり、巽聖歌とラジオ放送「こどもの時間」・テキストとのかわりなど、今まで知られていなかったことが判明した。 ・10月に、横須賀から茶木滋(童謡めだかの学校の作詩者、巽聖歌と交流があった)の研究者が来館、その後、横須賀時代の巽聖歌についての情報をいくつか教えてもらうことが出来た。 ・コロナ禍で、たきび祭をはじめとする諸活動が停止、紫波町との交流も出来なくなった。資料集の刊行は、関係者の方々にとっても喜んでいただくことが出来たが、紫波町で巽聖歌の顕彰を行っている内城弘隆氏は、毎月研究便りを発行してくださり、途切れることなく交流を続けることが出来た。 	
<p>協議会の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野の中学生と紫波の中学生との交流事業は重要な地域おこしの成果。地域おこしという視点からいろいろなところに情報発信していくと、巽聖歌事業自体に関心をもってもらえる。 ・巽聖歌は学校の教材にもなる。 	
<p>課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巽聖歌の資料整理事業は、平成10年から行っており、22年目を迎えた。継続することにより、地元や紫波町などとの連携が進み、様々な成果が上がっている。 ・関心が高まる中、資料活用ができるようにすることが必要であるが、資料の整理、調査・研究ということについては、他の多くの事業の一部としての時間しか割くことができず、遅々として進んでいないのが現状である。調査の過程で遠方に関連する資料があることがわかり、調査が必要な場合もあるが、人手も予算措置もほとんどない。 ・姉妹都市となった紫波町とは産業や学校教育分野で交流が行われており、市の交流担当部署と連絡調整をするとともに、郷土資料館として資料整理の目標や計画を設定し、具体的に資料整理が進む体制を構築する。 	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 11 資料館講座・体験学習事業
<p>事業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土の文化や歴史・自然などを、より深く学ぶために講座や体験をともなう学習会を開催する。 ・No.10 までの事業として取り上げていない講座・事業を No.11 では評価対象とする。 ・この項目にはいる 令和2年度実施予定だった事業 講座「映画荷車の歌」、「正月飾りをつくろう」、「みんなで遊ぼう！昔のあそび」、「化石でたどる大昔の日野」、「どんど焼」が中止となった。 	
<p>事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座「写真と映像で見る豊田」は、講座としては中止したが、パネル展示を実施した。評価表の NO.3 企画展の項目にて掲載している。 	
<p>協議会の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、資料館講座・体験学習事業が、不要不急なのか安全対策がとれるのか、十分検討し、出来る限り実施できるよう努力をしてほしい。 ・感染症の影響で実地での実施が難しい場合は、講座の代わりにパネル展を開催するなど柔軟に対応されている。 ・勝五郎や企画展の方でも行われているが、Zoom 等を使ったオンラインでの実施や動画での配信など、講座の内容によっては難しいものもあるかもしれないが、今後も様々な工夫を凝らして実施していただきたい。 ・オンラインでの実施は、普段郷土資料館まで訪れることが難しい体の不自由な人や子育て世代、遠方の人も参加することができ、感染症対策という面以外でのメリットもある。例えば私の職場では、工作教室で事前に材料を参加者に郵送し、Zoom を使ってオンラインで作り方を教える、あるいは作り方動画を撮影して配信するという方法も行った。 ・多摩川流路が変わり、今までの化石観察場所が見られなくなったことは残念であるが、市内にある多摩動物公園の現代のゾウと化石の牙や足跡の活用が望まれる。 	
<p>課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症予防のため、中止となった行事が多かった。そんな中で、講座から写真展に形を変えたことで成果につながったものもあった。 ・正月飾りや昔遊びのように、人と人が近づかないと指導しにくいものは、指導法を変更するか、年中行事を検討することや製作工程を情報発信するといった対応が考えられる。 ・野外の観察会は、少人数の定員設定や観察時に集合しない工夫をする。 ・コロナの警戒状況により中止変更があり得ることを申込者に事前周知した上で、最善の方法で実施決定をする 	

<参考資料>

I 令和2年度 日野市郷土資料館の活動状況

1 郷土資料館協議会

日野市郷土資料館協議会は、博物館法に基づき、資料館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。また、日野市郷土資料館条例に、協議会委員は教育委員会が任命し、委員の定数は10名以内となっている。なお、委員の任期は2年となっている。

(1) 協議会委員名簿

氏名	主な活動分野
◎小杉 博司	社会教育の関係者(郷土教育研究)
○平 自由	社会教育の関係者(考古学・博物館学)
畠山 豊	社会教育の関係者(民俗学・博物館学)
保坂 一房	学識経験者(多摩の地域史研究)
佐藤 福子	学識経験者(歴史・古文書研究)
片山 敦	学識経験者(生物・環境教育)
猿田 恵一	学校教育の関係者(旭が丘小学校校長)
高橋 清吾	学校教育の関係者(日野第一中学校校長)
中村 高志	公募市民
西山 千絵	公募市民

第8期 任期 令和2年3月4日～令和4年3月3日 ◎委員長 ○副委員長

(2) 開催状況

開催日	会場	協議内容
7.2	郷土資料館	1はじめに ①郷土資料館協議会第8期委員について ②職員紹介 2報告事項 令和2年度事業の進捗状況と今後の予定 3協議事項 運営の状況に関する評価(令和元年度事業) 4見学 企画展「七生丘陵ハイキングの今昔」見学
11.26	日野市役所	1報告事項 ② 令和元年度事業評価について ②令和2年度事業の進捗状況と今後の予定 2協議事項 令和3年度の事業計画(特別展示、組織統合について) 3見学 特別展「みんなの ひの宝モノ語り展」
3.13 付発送	郷土資料館	1令和2年度事業について報告 2令和3年度の事業計画について報告 書面開催 議題を送付して 意見を委員に求めた。

2 古文書等歴史資料整理編集委員会

日野市古文書等歴史資料整理編集委員会は、市民の教養、学術及び文化の向上を図ることを目的に、古文書等歴史資料を調査するため設置されている。

委員会の委員は、古文書等歴史資料に対して優れた見識を有する者の内から教育委員会が選任し、定数は6名以内、任期は2年となっている。

(1) 第11期委員名簿

氏名	専門分野	氏名	専門分野
多田 仁一	近世史	清水 守男	近現代史
馬場 憲一	近世史	鈴木 淳世	近世史
安藤 陽子	近代史	保坂 一房	近現代史

第11期任期 平成31年2月1日～令和3年1月31日

(2) 開催状況

開催日	会場	協議内容
11.17	郷土資料館	1令和3年度「郷土課」の新設について 2令和元年度後半の資料調査事業について ① 特別展「豊田のむかし」開催と関連調査事業 ② その他の資料調査事業について ・個人所蔵資料の調査(1件) ・飯縄神社の建替えに伴う調査 ・平山燃糸工場調査 ・日野農協倉庫の取り壊しに伴う調査 ③『たきびの詩人 巽聖歌資料集1』の刊行について ④マイクロフィルムのデータ化事業について ⑤その他 ・平山村改正反別帳の修復について、・古文書講座の開催報告 3令和2年度以降のマイクロフィルムのデータ化について 4令和2年度の資料調査事業について ・古文書等歴史資料の調査と整理 個人所蔵資料(11件) 5広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 6その他 ・写真展豊田・多摩平の100年の開催について ・ミニコーナー展「国勢調査100年」の開催について ・日野駅130年記念事業について ・豊田駅120年記念事業について ・古文書講座の開催について ・日野の古文書を読む会『軌跡IV』の刊行について ・特別展「みんなのひの宝モノ語り展」開催ならびに動画の配信について ・『日野市域におけるサイノカミ・どんど焼き行事調査報告書』の刊行について ・会議終了後、特別展(第二会場)展示案内

開催日	会場	協議内容
3.5	コロナウイルス感染症対応のため書面開催	1 第12期委員(任期令和3.2.1～5.1.31)の委嘱状交付(郵送) 2 令和2年度の資料調査事業について(報告) ・古文書等歴史資料の調査と整理 個人所蔵資料(6件)、川辺堀之内講中膳椀関係資料 ・豊田駅開業120年記念事業について ・安田善衛作の能面について ・豊田駅前第二市街地住宅の記録保存撮影 ・日野第四小学校関係資料の調査 3 令和2年度以降のマイクロフィルムのデータ化について(報告) 4 令和3年度の資料調査事業について 5 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 6 初心者向け古文書講座の開催について(報告) 7 所蔵資料の修復事業について 8 その他 ・郷土資料館・ふるさと歴史館・文化財係の統合について

3 展示事業

(1) 企画展示

企画展名	展示期間	観覧者数
七生丘陵ハイキングの今昔	4.18～7.5	79
どっき土器展2020「考古学入門」	7.11～9.27	287
ミニコーナー展「国勢調査のはじまり」	9.26～12.11	—
パネル展「東京オリンピック記念植樹と市制記念植樹碑」	6.13～7.31	—
パネル展「明日に伝える戦争体験」	8.2～9.11	—
パネル展「百草倉沢地区の歴史を楽しむ」	9.12～12.13	—
パネル展「異聖歌」学校貸出用パネル展示	12.19～4.23	—
合計		366

(2) 施設見学

① 学校等

月日	学校名等	対象	内容	人数
6.26	わかば教室	小・中	プール採集の水生昆虫観察	8
8.6	わかば教室	小・中	平山陸稲 ホウネンエビ見学	15
8.20 ～26	博物館実習	大学生	学芸員資格のための校外実習5日×4人	20
10.13	滝合小学校	3年	社会科見学	62
10.15	仲田小学校	3年	社会科見学	81
11.11	南多摩中等教育学校	1年	総合的な学習(地域調査)	6

月 日	学校名等	対 象	内 容	人数
11.20	日野第三中学校	2 年	総合的な学習の時間 職場訪問	7
11.26	日野第四小学校	3 年	社会科見学	115
12.4	日野第一小学校	3 年	社会科見学	69
12.18	わかば教室	小・中	平山陸稲の脱穀体験	12
1.22	帝京大学小学校	3 年	社会科 暮らしの移り変わり	56
合 計	11 件			451

(3) 特別展「みんなの ひの宝モノ語り展」

① 観覧者数

会期	会 場	観覧者数
9.12 ~ 11.29	第一会場 新選組のふるさと歴史館	2,765
10.3 ~ 3.28	第二会場 日野市郷土資料館	556
	合 計	3,331

② 特別展関連行事

月 日	名 称	人数
10.17	多摩地域におけるサイノカミ・どんど焼き行事ミニシンポジウム(収録)	5
合計	1 回	

4 動画配信

コロナウイルス感染症対応も考慮し、YouTube による動画配信を行った。

- ・日野の郷土へのいぎないシリーズ2件
戦争体験を語り継ぐ 8月7日～
東京オリンピックのレガシー 6月30日～
- ・第12回藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日講演会 10月10日～

5 イベントについて

真慈悲寺現地イベント、たきび祭(前夜祭ほか)は、新型コロナウイルス感染防止のため中止

6 教育普及事業

(1) 体験学習会・講座

令和2年度計画にあったもののうち、以下は新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

映画「荷車の歌」と原作者山代巴、体験学習会 正月飾りを作ろう、みんなで遊ぼう！昔のあそび、化石でたどる大昔の日野。

(2) 講座

定期講座

月日	内容	講師	会場	人数
1.23	初心者向け古文書講座 多摩川・浅川と日野 第1回	上野さだ子	郷土資料館	19
1.30	初心者向け古文書講座 多摩川・浅川と日野 第2回	上野さだ子	郷土資料館	20
2.6	初心者向け古文書講座 多摩川・浅川と日野 第3回	上野さだ子	郷土資料館	19
2.13	初心者向け古文書講座 多摩川・浅川と日野 第4回	大窪俊彦	郷土資料館	18
2.27	初心者向け古文書講座 多摩川・浅川と日野 第5回	大窪俊彦	郷土資料館	19
3.13	初心者向け古文書講座 多摩川・浅川と日野 第6回	大窪俊彦	郷土資料館	18
合計	6回			113

※調査事業による講座については、各事業欄に記載。

(3) 出張事業(展示及び講師派遣) ※調査事業関連の出張事業は各事業欄に記載。

① 学校等への出張授業

月日	学校名	対象	内容	人数
7.3	夢が丘小学校	3年	国語 こまの紹介・こま回し体験	51
9.8	日野第二中学校	1年	総合的な学習の時間 日野市の歴史	155
10.19	夢が丘小学校	3年	総合的な学習の時間 丘陵の自然	51
10.29	日野第一中学校	1年	総合的な学習の時間 歴史と昔の道具	31
12.3	滝合小学校	3年	社会科 日野市の様子と移り変わり 昔の暮らし	57
1.21	南平小学校	3年	社会科 暮らしの移り変わり	93
1.28	潤徳小学校	3年	社会科 日野市の移り変わり	114
2.17	日野第三小学校	3年	社会科 日野市の移り変わり	70
2.18	日野第二中学校	3年	総合的な学習の時間 職業の話	37
合計			9件	659

② その他

月日	内容	会場	人数
12.5	公民館講座「蚕でつなぐプロジェクト」糸取り編	中央公民館	25
12.3	公民館日野市民大学「日野の災害史を学ぶ」	中央公民館	25
12.10	公民館講座「日野市域における大正期の暮らし」 (特別展関連内容)	中央公民館	22
3.6	公民館 平山中地区アウトリーチ事業 「平山を知る」座学と現地歩き	平山地域	11
9.2~9.30	パネル展「写真展 豊田・多摩平の100年」	多摩平の森ふれあい館	402
11.7~11.20	秋の展示	介護老人保健施設 カトレア	—
1.22~3.30	昔の道具~万願寺の風景	万願寺交流センター	—
3.4~3.7	東京空襲資料展「戦争を繰り返さないために」	多摩平の森ふれあい館	287

3.25～4.22	パネル展「程久保川」	多摩平の森ふれあい館	200
合計	9件		972

(4) レファレンス事業

項目	件数
電話・Eメール・手紙などで寄せられた質問に対する調査回答	72

7 所蔵資料活用事業

(1) 資料のデータ化事業

新資料管理システムの導入と、マイクロフィルムからデジタル変換済のデータの移行作業を実施。

(2) 資料の貸出事業

貸出先	資料	目的
桜美林大学 1件	千歯扱き	博物館実習(資料収集・整理実習)
新選組のふるさと歴史館 1件	古文書	展示
小学校、児童館、公民館、教育センター、博物館ほか 9件	座繰、地層標本、縄文土器と施文具セット、唐箕、足踏み脱穀機、糸車、日野市歌ほか	理科・総合学習・国語授業、脱穀などの体験学習
件数	11	

(3) 資料の撮影・閲覧 概要

資料内容	目的
【資料写真の提供】 武蔵名勝図会、高幡不動胎内文書、オリンピック写真等市域の古写真、古文書資料、巽聖歌肖像・土層標本ほか	自治体史・博物館展示・書籍・社内報・新聞・教科書・大学研究誌・テレビ番組・店舗内掲示・講演会チラシ・博物館展示
【資料の閲覧・調査】 巽聖歌資料・童謡たきび・市内古文書調査など	新聞社・古文書調査等
件数	22

8 資料収集保存・調査事業

(1) 資料収集保存事業

項目	内容	件数等
資料寄贈	銭箱、消防ポンプ、掘り炬燵枠・飯台ほか生活用具、念仏講用具、書籍『蟲鳥と生活する』、かんざし一式、紙製レコード、古銭、ビデオ「旧五街道踏破の記録」30巻、万蔵院台縄文コレクション	11件
資料購入・製作	『武蔵名勝図会』（片山迪夫校訂、慶友社）の購入	1点
収集資料の整備ほか	民具の補修、農具体験及び脱穀体験の補助及び民具整理補助（12回）	70人
資料修復	「平山村田畑反別其外取調野帳」（452～1054番） その4	1点

(2) 調査事業

① 真慈悲寺調査事業

区分	事業名	内容	回数	人数
普及	文化財の啓発	京王電鉄・氏子会・その他関連企業へ文化財の説明会を実施。	1	8
	東京都遺跡発表会	「古代末から中世への歴史的な大変換点に存在した真慈悲寺」を紙面にて発表。	-	-
	QRコード	百草・倉沢周辺の歴史解説 QRコード改訂検討会	4	45
	展示	9.12～12.13 パネル展「百草倉沢の歴史を楽しむ 発掘調査の成果から」会場：郷土資料館	1	-
	郷土教育協力	「中世の大寺院真慈悲寺」（平安時代編）パワーポイント資料を作成。教員向けネットワークに公開。	-	-
調査・研究	講座・研究会	発掘調査報告書について	1	11
		講座「文献資料からみた真慈悲寺」講師：峰岸純夫	1	12
		百草地区個人宅稲荷神社の棟札解説		
		『歴史散策ガイド』校正・検討会	1	12
	新資料調査	万蔵院台縄文コレクションの調査 京王百草園内表採の寄贈古銭「文久永宝」調査		
文化財維持・整備	文化財の現状確認と保護	「国指定重要文化財阿弥陀如来坐像」、「百草八幡神社伝来の古刀」、「武州多摩郡百草村榊井山正八幡宮伝紀」、「小林正興奉納仏具」を保護するためのシリカゲルと防虫香の交換。	-	-
環境整備	その他	真慈悲寺調査研究センター整備・看板清掃	7	-
ボラン	会議など	役員会	2	12

ティア		意見交換会	1	13
刊行物の発行等	印刷	真慈悲寺解説リーフレット発掘特集号改訂版 3,000部		
	DVD制作	上映の効率化へむけて既存DVDの再編集。		
計			19	113

②勝五郎生まれ変わり物語調査事業

項目	内容	人数
例会	毎月第二水曜日午後(9回) 令和2年4・5月、令和3年2月は中止、1月は書面開催	149
総会	7.8 郷土資料館(7月例会と同時開催)	13
公開講演会	コロナウイルス感染症対応のため中止	
展示・講座	コロナウイルス感染症対応のため中止	
記念行事	10.10 第12回藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日講演会 (コロナウイルス感染症対応のため動画配信) (10.10~3.31 YouTube 視聴 1,800) ①講演会「勝五郎のこの世の旅」 「勝五郎のあの世の旅」(講師 今井秀和) ②立体紙芝居「ほどくぼ小僧生まれ変わりの勝五郎」(日本語・英語) ③紙芝居「ほどくぼ小僧生まれ変わりの勝五郎」 ④勝五郎調査団活動報告 (合計6プログラム)	1,800
調査活動	露姫坐像等の関係資料調査	
その他の活動	調査団ニュース発行(2回) 訪問者対応(10・12・3月)3回	47
刊行物の発行	記念碑リーフレット 5,000部 藤蔵墓地ミニリーフレット 5,000部	
合計(人数)		2,009

※3月実施予定だった春休み子ども講座は、新型コロナウイルス感染症対応のため中止

③七生丘陵調査事業

内容	回数など	人数
定例会(9回)・総会(1回は書面開催)	9	39
学習会 11.7 程久保川と周辺の歴史 講師:上野さだ子	1	6
七生丘陵の屋外観察記録 グループ活動	15	58
七生丘陵の屋外観察記録 個人活動 1~3月	37	37
パネル展「程久保川」 パネル内容を七生丘陵調査団が調査編集した。 会期:3.25~4.22 会場:多摩平の森ふれあい館	-	-
合計	63回	140

④ 古文書調査事業

ア 日野の古文書を読む会との協働

内容	回数	人数
古文書整理(南平・平家文書)	11	41
古文書の解読(古谷平右衛門日記ほか)	23	172
編集会議	1	3
立川市鈴木家文書の閲覧と複写	1	2
合計	36	218

イ その他の調査事業

・地域の歴史を記録した資料の調査・整理・目録作成および写真撮影

個人所蔵の資料調査(8件)、豊田小学校資料、日野第四小学校資料、川辺堀之内講中膳椀関係資料、飯縄神社採集資料

・日野の昭和史を綴る会との協働で、日野本郷の地名調査を実施。

⑤ 異聖歌関連事業

イベント・調査等

月日	内容
12月～4月	異聖歌学校貸し出し用パネル展
	たきび祭前夜祭および、たきび祭は中止
(年間)	「異聖歌資料」の整理

⑥ その他

項目	内容
文化財緊急調査	資料活用のための市域古写真の複写 日野桑園第一蚕室(主に火焔等)の記録保存撮査 修理後の日野桑園第一蚕室の記録撮影
民俗調査 サイノカミ行事及び門松・しめ縄作り調査 (サイノカミ・どんど焼き勉強会) 川辺堀之内の火の見やぐら調査	日野市域のサイノカミ・どんど焼き行事調査等 コロナ禍における地域行事の記録保存、『日野市域におけるサイノカミ・どんど焼き行事調査報告書』を発行した。 解体前の火の見やぐら本体及び景観の記録保存

9 東京都博物館協議会・東京都三多摩公立博物館協議会

(1) 東京都博物館協議会

- ①第1回総会(書面開催)
- ②第2回総会(書面開催)

(2) 東京都三多摩公立博物館協議会

- ①定期総会(書面開催) 令和2年6月19日
- ②協議会 令和2年11月13日 会場:調布市教育会館

③研修会 第1回 令和2年12月24日 会場:東京都立埋蔵文化財調査センター

「博物館でのウェブ活用～オンラインの事例紹介～」

第2回 令和3年3月26日 会場:福生市立図書館 「博物館における新型コロナウイルス関連資料の収集

<参考資料>

II 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日制定

(目的)

第1条 この要綱は、博物館法（昭和26年法律第285号）第9条の規定する、日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市郷土資料館（以下「資料館」という。）は、毎年1回、資料館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 資料館は、資料館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 資料館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 資料館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 資料館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、資料館資料館係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、資料館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する

<参考資料>

Ⅲ 日野市郷土資料館協議会委員名簿（第8期）

番号	氏名	専門分野	期
1	小杉博司 (委員長)	社会教育の関係者 (郷土教育研究)	4
2	平 自由 (副委員長)	社会教育の関係者 (考古学・博物館学)	3
3	畠山 豊	社会教育の関係者 (民俗学・博物館学)	3
4	保坂一房	学識経験者 (多摩の地域史研究)	3
5	佐藤福子	学識経験者 (歴史・古文書研究)	2
6	片山 敦	学識経験者 (生物・環境教育)	2
7	猿田恵一 任期:令和2年3月4日～令和3年3月31日	学校教育の関係者 (旭が丘小学校校長)	2
	長崎将幸 任期:令和3年4月1日～令和4年3月3日	学校教育の関係者 (平山小学校校長)	新
8	高橋清吾	学校教育の関係者 (日野第一中学校校長)	2
9	中村高志	公募市民	2
10	西山千絵	公募市民	2

任期 自 令和2年 3月 4日

至 令和4年 3月 3日

令和3年度日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
(令和2年度事業)

令和3年9月

日野市ふるさと文化財課
(郷土資料館)

〒191-0042

東京都日野市程久保550番地

電話 042-592-0981

FAX 042-594-1915